

5年1組 特別の教科 道徳

1 主題名 生命の重み 内容項目：D 生命の尊さ

2 教材名・教材について 「命の種を植えたい 一緒方洪庵」

本教材は、天然痘で多くの命が失われることは仕方ないとされていた時代に、その命をなんとかしても救いたいと願い、行動した緒方洪庵によって、多くの人の命が救われたという話である。

命が一つしかないこと、大切なものであるということは常識として理解しているものの、自分事として捉えている児童は少ない。今、自分の命があることは決して当たり前のことではなく、その命が無事であるためには、脈々と命への思いが受け継がれてきたことを理解し、互いに命の重みを感じ、尊重し合うことが大切であることを考えさせる必要がある。

そこで本教材から、緒方洪庵の人々を救いたいという思いによって当時の人々の命が救われたことだけでなく、現代に生きる自分たちも安心して暮らせていることや、救われた命が今に生きる自分たちにもめぐりめぐってつながっていることに気付かせ、生命の尊さについて改めて見つめ直す機会としたい。

3 ねらい

さまざまな苦難を乗り越えて、一人でも多くの命を救おうとした洪庵の尊い姿から、命がかけがえのないものであることを知り、尊重しようとする態度を育てる。

4 本時の流れ

	授 業 の 流 れ	
導 入	1 「命の大切さを感じるのはどんなとき」かについて考える。	
展 開 前 段	2 教材「命の種を植えたい 一緒方洪庵」を読み、人々を救いたいという洪庵の思いについて考える。 (1) 緒方洪庵はどんな人物だったかについて話し合う。 (2) 人々を救いたいという洪庵の思いの源は何かについて話し合う。	
展 開 後 段	3 なぜ命は大切なのかについて考え、発表する。 (1) 改めてなぜ命は大切なのかについて話し合う。 4 命の大切さについて感じたこと、考えさせられたことを書く。	命を失う大きな病気を防ぐことができるのは、緒方洪庵のような人々の思いがあったからだ。
ま と め	5 教師の説話を聞く。	命を救うために努力した人たちがいるから、命がつながってきたとわかった。

◆見どころ◆

本教材は、江戸時代の日本、そして実在する人物の行動を取り上げており、児童にとって場面や状況をイメージしやすくなっています。あって当たり前に感じている命について、命を救おうと努力した人物の姿から生命の大切さに気付き、尊重しようとする心情を育てられるようにします。